

特定非営利活動法人 ピアソン会

第84号

2019. 1.31

ピアソン便り

発行人：吉田 邦子（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

ピアソン会事務局
(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel: 0157-31-1215

ピアソン記念館内

AM.9:30 ~ PM.4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

新年にあたり挨拶申し上げます

ピアソン会理事長 吉田 邦子



いつになく厳しい寒さの続く年末年始でしたが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

初期ボランティアグループ・ピアソン会は発足4年後の2002年12月、「NPO法人ピアソン会」として近郊の文化団体初の認定を受けました。翌2003年4月、北見市からピアソン記念館の管理運営を任せられ、2004年4月、北見市指定管理者制度が始まり、指定管理者に認定されました。

ボランティアグループの活動から20年を過ぎた今年2019年、北見市・エリザベス市姉妹都市提携関係は50周年を迎えます。ピアソン便りでもご紹介のとおり、記念事業が全市的に計画されています。米国ニュージャージー州エリザベス市出身のピアソン宣教師の私邸は1996年に北見市指定文化財、2001年に第一期の北海道遺産に認定されました。2014年は築後100年、姉妹都市提携45年という節目で、両市間の相互訪問や当会の「ピアソン夫妻書簡・レポート集」翻訳出版、記念展示会などがありました。

今年の記念事業実行委員会は両市間での行事を進めていきますが、ピアソン会からも企画を提言したり、独自の計画も進めています。

一連の事柄は随時ご案内いたしますので、これまで同様ご協力ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

幼稚園児の手作りクリスマスツリー



ピアソン学園北見幼稚園の園児42名の手作りオーナメントによるクリスマスツリーが、今期(12月5日から1月7日)もピアソン記念館に展示され、来館者の目を楽しませてくれました。



ピアソン邸が北見でのクリスマスツリー発祥の場所であることから、昔と同じように、子どもたちの手作りツリーを作製展示しました。自分の名前を書いたオーナメントを一つ一つモミの木に吊るした園児たちは、最後に賛美歌とクリスマスソングを歌い、ツリーの完成を喜んでいました。



故小池創造牧師遺品資料

データ整理修了報告！ (1)

昨年の5月に、故小池創造牧師の親族より、ピアノン記念館復元に関する新聞記事のスクラップや、姉妹都市提携に関する記録資料の寄贈を受けておりました。それらを整理する作業を、合間合間にしておりましたが、昨年末ようやく完了出来ました。

氏が、トーマス・G・ダン市長に提言し、尚且つ「私たちも両市の縁組に協力したい」、というラサロ氏の記事での返信があったことが書かれています。

姉妹都市提携！

これらの資料は、主に姉妹都市提携の新聞記事や、ピアノン邸が記念館として復元されるまでの新聞資料等です。

この新聞記事が発端となって、北見市もエリザベス市も本格的に姉妹都市提携に向けて進んでいくようになります。しかし、現在のようになり電話が便利な時代ではなく、

北見市とエリザベス市は、今年で姉妹都市提携50年を迎えることになりましたが、今回の紙面で紹介する新聞記事は、1967(昭和42)年のものですが、エリザベス市の新聞に掲載された記事の紹介となっています。



当会理事、佐々木信一氏(62歳)が一月十八日に逝去されました。

故人を偲び、親交の深かった伊藤理事の追悼の一文を掲載いたします。

「思い出すままに」

亡くなられた佐々木信一さんとは、仕事上でのお付き合いが始まりました。今から約35年前、国立北見図書館のコンピュータ化の仕事で、佐々木氏は大手コンピュータメーカーのSEとして参加されたことに始まります。



画を立案しました。その作業がスムーズに進行できるように、氏の指導を受けながらの作業で、見事全国から注目を集める電算化が実現できたのです。それが全国の図書館ネットワークの始まりとなったのです。

以来、北見市開拓百年記念の「北光社開拓の動画」作成など、北見市の仕事に色々と技術提供していただきました。

ピアノン会がNPO法人を申請した2002年にはピアノン会のホームページを担当していただき、ボランティアでの作業をしていただくようになりました。病気が発症し入院治療が始まる2017年秋まで15年間担当していただき傍ら2014年からは理事としても活動に加わっていたいております。

理事会への復帰を期待しておりましたが、残念な結果になってしまいました。誠に名残惜しいですがご冥福をお祈りいたします。 理事 伊藤/記

写真/葬儀の様子(1月22日撮影)

当時全国的には、図書館のコンピュータ化は、莫大な経費がかかる割には、図書館の長期休館が必要であったり、設備にかかる経費がほとんど地元には還元されないなど、地域経済にはメリットが少ない事業でした。そのようなマイナス面をクリアしてデータの著作権を図書館で所有(近隣町村との図書館ネットワークを可能にすること)することなど、また図書館の休館をしないでコンピュータ化する方法、さらにハード経費面以外は地域の経済に還元される方法、などを考慮した「北見方式」での計画で実践計

「ニュージーランドからの便り」第15回

～ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏～



◆明日は姉夫婦の所で家族たちと一緒にクリスマスディナーに合流します。先日庭の新ジャガイモを掘りました。良い味でした。クリスマスディナー用にまた掘るつもりです。

*2018・12・24
◆メッセージとカレンダーや新聞切り抜き、最新のピアソン便りの郵便物ありがとうございます。今日郵便受けに届きました。タイミングはピッタリでした。

◆現在の天候は湿気が多く涼しいので、この時期にクリスマスや夏休みにキャンプなどに出かけたいと思っている人々には望ましくありません。

◆弟が来ていて、毎年のことながらクリスマスハムの飾り付けをきれいにしてくれています。彼はピアソン便りにカークスの墓碑銘の写真が載っているのを見て興味深く思い、自分用に届けられたその便りを家族の記録資料の中に加えます。

素敵な来館者!

1月22日、山梨英和学院の深沢美恵子史料室長姉妹が来館されました。深沢さんは山梨英和学院にあるヴォーリズ建築の宣教師館保存運動を熱心に行っている方で、ピアソン記念館の保存方法について勉強されておりました。妹さんはアメリカニューヨーク在住でエリザベス市についてはよくご存知の方でした。これもご縁ですね!



写真右／真中に深沢美恵子さん、向かって右側に妹さん。左に伊藤理事。

「ピアソン学事始め」

この「ピアソン学事始め」は、15年前に街の情報紙に書かれたものですが、少し手を加え年号なども修正し改稿として連載しています。

(9) 神学部を卒業し、日本への旅立ち

ピアソンさんは、プリンストン大学の神学部を1888年に卒業しますが、同時に宣教師として日本伝道の任命を受けます。

アメリカを八月二一日に出航と故小池牧師の記録がありますが、どの資料を元に書かれたか定かではありません。サンフランシスコから船に乗り、ハワイ経由で横浜を目指したのと思われまます。明治二一年当時は、アメリカの二つの会社が、この航路の運行をしていたようで、『海運興国史』畝川鎮夫著(昭和二年出版)によりますと、明治二〇年代の米國航路の概況として『(1)太平洋郵船会社、每十八日一回(サンフランシスコ)・横浜・香港間往復。(2)東西洋汽船会社 每十八日一回』と記されています。

二一日に出航とありますから、海が荒れて三日程出航が遅れたの

ピアソン会理事 伊藤 悟

かも知れません。日本へは当時、約十八日くらい日数がかかったようですが、ピアソンさんは、九月十日に横浜に着いたとの記録がありますので、ハワイ経由の船で来たと考えられます。

約二〇日の船旅はどのようなものであったのか、ピアソン氏は晩年回想して記録に残しています。『船上の夜空にかかる月や星の輝きを眺めながら、賛美歌と母のあの最後の抱擁で送りだされたあの時の暖かさど甘さ、今それを噛みしめながら前途にどのような困難と……』ピアソンさん二八才、これから四〇年間にわたり、日本での生活が始まるのです。(つづく)



広告見本
年6回掲載で、年額10,000円です。
30ミリ × 50ミリ

ピアソン夫妻資料収集記 (5)

ピアソン会理事 玉置 義弘

第83号のピアソン便りで紹介した、《1882年プリンストン大学卒業3周年記念同窓会誌(1885年発行)》に「ピアソン宣教師は『今年の秋には神学校に進み、将来は卒業10周年記念誌を見てください』と書いていました。1892年に発行された「10周年同窓会記録」記念誌に、その10年後の消息が書かれていたので、今回それを紹介いたします。かなり長い文章になりますので、部分省略文章を掲載します。今回も北原俊之氏に翻訳をお願いいたしました。

最初に、『大学を卒業して神学校に入學するまでの3年間は教師をしていた後、プリンストン神学校で神学を学び、東京のミッション大学「明治学院」の教師として、日本に招かれた』と書いてあります。

(前文略) 明治学院大学で1年あまり教師をしましたが、その後は、主として日本語に熟達することを目指して、語



写真／神学部卒業の頃のピアソン。

学学習と練習のために、東京郊外の公立学校(県立千葉中学校)で職を得ました。この学校を退職したあと今もって、私は日本語学習を続けており、いつか来るべき日が来ることを願っています。日本語を学習して、日常的な伝道活動をするのに十分な程度までの日本語を身につけることは、極めて難しいものです。私は、よく同窓生のテイラーと、中国語と日本語ではどちらが難しいか、言いあいしたのですが、学問的な見地からあらゆる事を勘案しても結論づけるのは難しいことです。

私が書いた著作物は、たとえ出版されることがあっても、同期の皆さんの名声を高めるようなことにはないでしょう。日本語の語句や漢字を書き留めたノートが、大いなる売りものとなることにはないでしょうが、しかしながら、「名譽と信頼」の身分ということになると、宣教師ほどの名譽と責任をになう存在は他にはないと感じています。(中間略)

私は、現在の仕事が入り込んでいて、もっと成果が上がることを願っているし、全く別のことをしようなどとは考えられないのです。結婚もあり得ないし、婚約もないでしょう。私は、長老派キリスト教会東京中会の一教会の会員です。政治に関して私が支持しているのは、関税を引き下げ、中国人にも機会を与えるような米国内の政党や、そして、「外国人遊歩規定」⑧の大改正、

つまり、もっと正確に言えば、外国人宣教師が、本来の活動のために、日本国内を自由に移動することを可能にしてくれるような日本の政党です。

このように宣教師としての活動の準備期間と窺わせる内容です。また「結婚もあり得ないし、婚約もないでしょう。」と書いていますが、この3年後にアイダ・ゲップとピアソン宣教師は結婚します。そしてこの1892年の同窓会誌に同期生のポール・マーティン(Paul Martin)がピアソン宣教師の消息に触れていますので紹介します。

(前文略) ジョージ・ベック・ピアソンは、本人から直接に便りをもたらすのが難しい人であり、今まで私が手紙をやりとりした人の中でもとくにご無沙汰ぎみの人です。いまもって、彼の住所がどこなのか定かではありません。

ジョージは、健康で、日本語と英語で宣教のための刊行物を編集するなどして、仕事に励んでおり、また、外国人としても英語話者の外国人としても彼一人しかいないような、人口が100万人ほどの地域で暮らしているのです。その地での仕事は、公立の学校で教えることです。このような(日本人ばかりの地に)たった一人身を置いて仕事することを選んだ目的は、彼が、日本語を徹底的に身につけようとするためだったのです。最近聞いた話では、彼は、家事をしてもらうための日本人家政婦を雇って、靴下を全て繕

ってもらっているとのことでした。最近、日本に居るある女性から、アメリカ人の女性達はみな、彼が結婚しないことを残念に思っていると教えてもらいましたし、また、彼を知っているアメリカ人を訪れた日本人達が、彼は日本人にはとても評判がよいと私に話してくれました。もし日本人が彼の事を毛嫌いして遠ざけてしまうようなことがあれば、私は日本人のことを、救いようもないダメな人々だと思ってしまう。(以下略)

ピアソン宣教師が県立千葉中学校で教えている時期の事と思われませんが、家事のために家政婦を雇ったというのは、この消息記事で初めて知りました。そして翻訳していただいた北原氏より、『ポール・マーティンはエリザベス市出身で、神学校も同期なので、ピアソン宣教師の幼なじみ』と考えられると指摘されましたが、私の手元にあるエリザベス市のウエストミンスター長老派教会の「Sabbath School(安息日学校 日曜学校?)」25周年記念誌(1891年発行)に、このスクール出身から召命を受けて牧師となった者としてピアソン宣教師とポール・マーティン牧師の名前が載っていましたので、間違いなく2人は幼なじみであることを確認できました。(続く)

⑧外国人遊歩規定(がいこくじんゆうほきてい)とは、開国後の日本が、横浜、箱館、神戸、長崎、新潟の開港場について、外国人の行動範囲を定め規定である。この規定によって、一

般の外国人が日本国内を自由に旅行することは禁止され、外国人居留地内およびそこから約四十キロメートルの範囲内では活動することが許されませんでした。外国人が遊歩区域の外に出るには、学問研究目的や療養目的に限られ、その場合も内地旅行免状が必要でした。

この条件は明治維新後も同様で、もし、外国人が居留地以外の地域へ出かけたと思ったら時には、外務省に申請し「内地旅行免状」を発給してもらうことが必要でした。また、内地旅行免状は病氣療養など特別な理由のある時しか発行されませんでした。

領事裁判権と治外法権(いわゆる不平等条約)の撤廃を認める日英通商航海條約が締結されると、それと引き換えにして内地雑居が認められることになりました(発効は明治32年/1899年)。

編集後記

新年を迎えました。北見地方は例年になく「雪が少なくていいね!」などと言っていたら大雪に見舞われました。油断はできないものです。病氣療養中であつた佐々木理事が1月18日に亡くなられ、23日に告別式が行われました。ピアソン会のホームページを療養の始まる2017年末まで担当されてきました。コンピュータのエキスパートでもあり、ピアソン記念館のため色々指導を受けていました。誠に残念です。いよいよ新年度の事業計画などを立案する時期になりました。皆様からのご意見をください。お待ちしております。(理事兼事務局長 伊藤 悟)